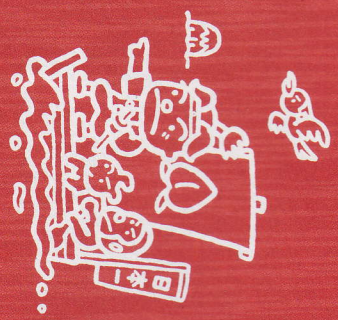
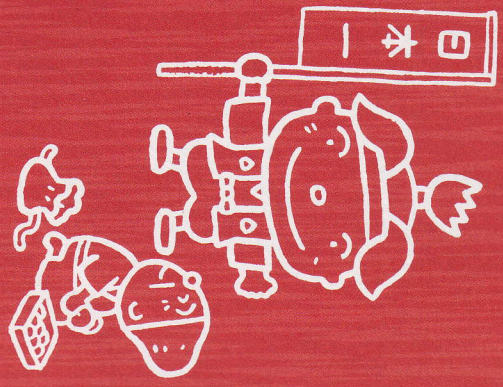
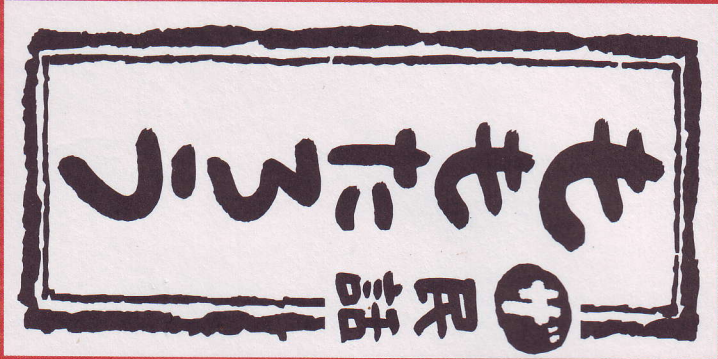


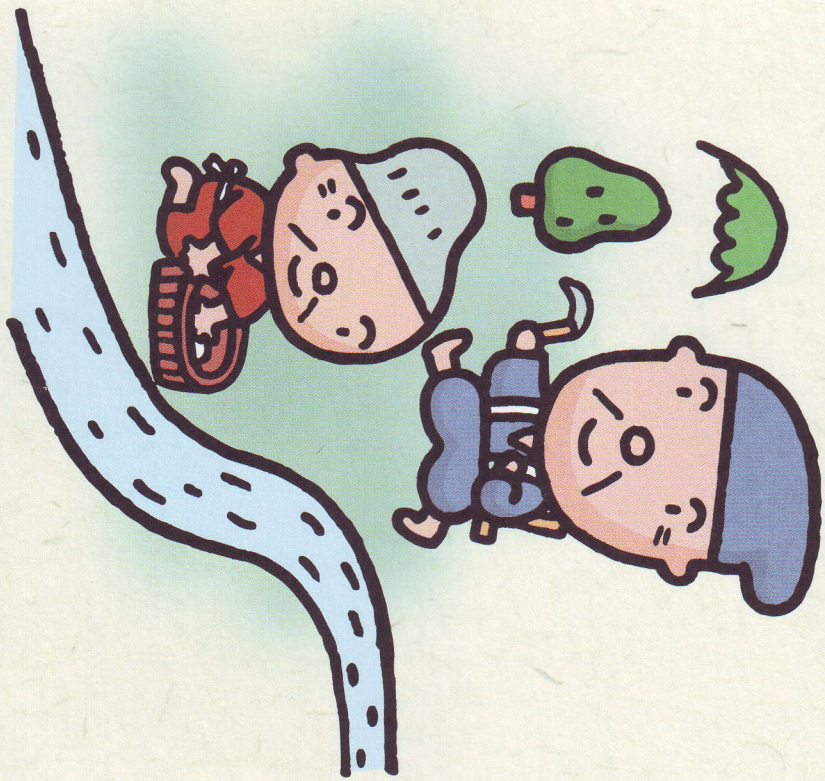
いん 226 オキム  
さん だま ちんみん





עבודת הש"ס





はなま川 < せんたくに いっぱい。

じなま山 < しほからに

あま田

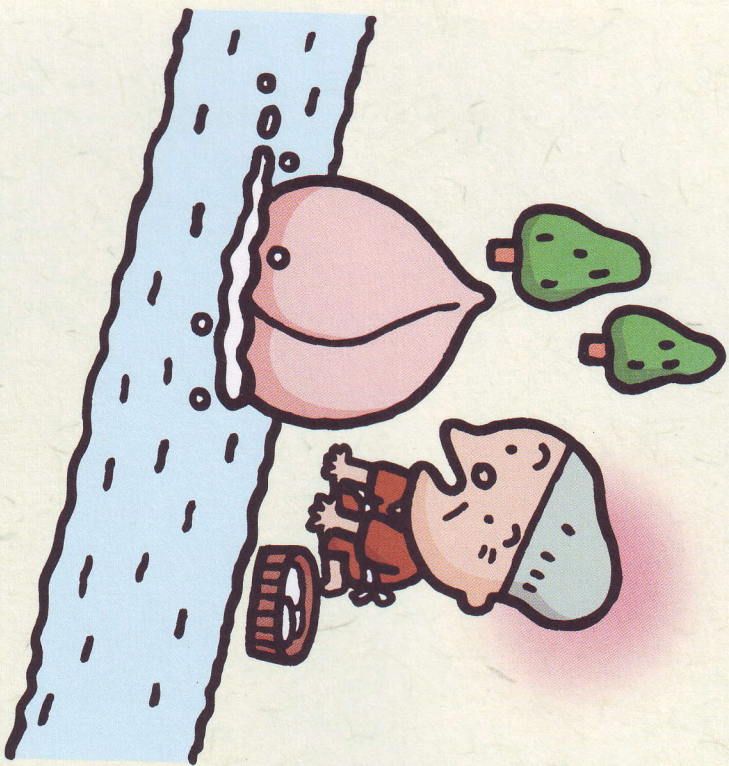
はなまか おこたそなだ。

あまところじに じなまし

わかし。



あると。  
川から大きなま  
まがらこどもがらこ  
こどもがらこどもがら  
なれてきたんだと。  
はまま そのまも ひろいおけ  
だいに かえて  
ひかくかえると 戸だなの なかに  
しまったそなた。









「あれま かわいし」

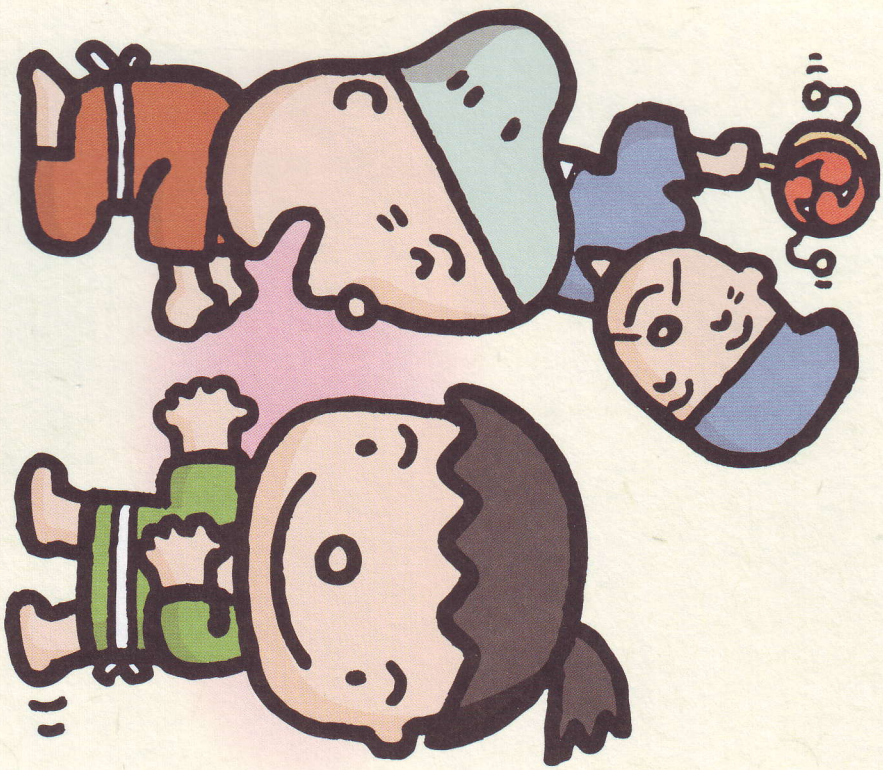
じさま ばさま おおよろこび。

まもから ままれて きたまんで

まもたると 空つけて

それは それは

だいに ぞだこた。





この ままだるの  
めしも さかなも もりもり たべて  
いねん たぐれは いねん だけ  
いねん たぐれは いねん だけ  
きんぎょん むくむく 大きく なつたぞ。





やがて。

大きくなつた ままだるん。

村の ひとが おかえに やつてきた。

「まだるん やーい ーい」

「なにに ーい」

「うは かに」

ちると

「かま といでないから ーいかん」

この ねを まだ

「くーい」と せまーてお

「うは かつて ぼん だいかん ーいかん」

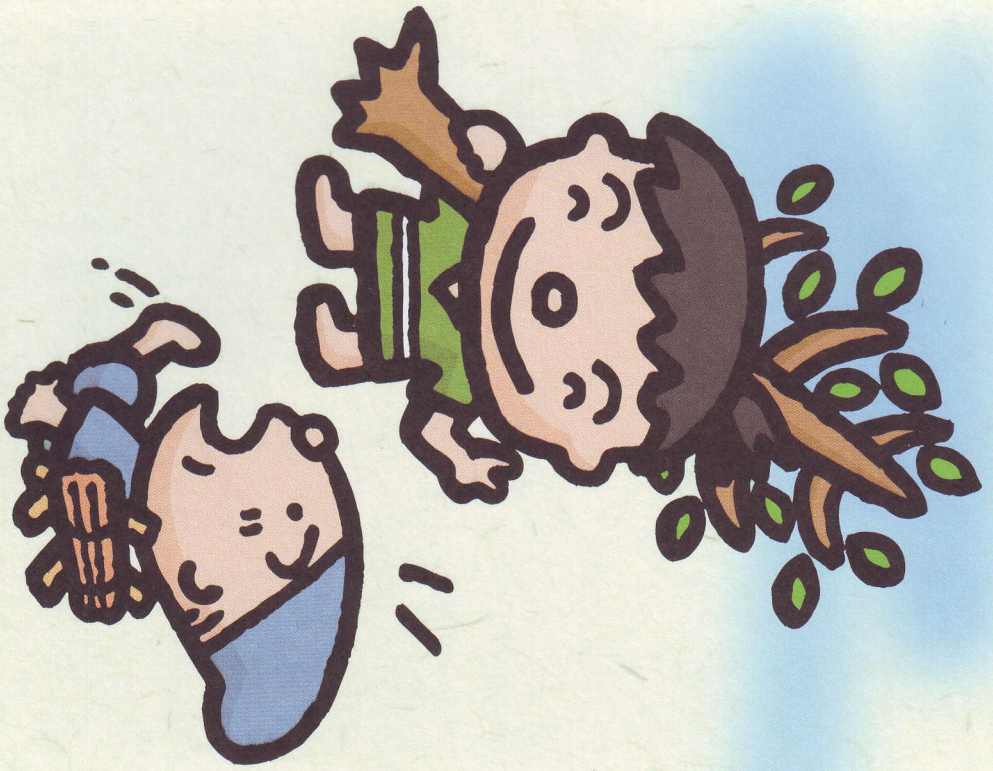
といつて まだ ひるね。





四回のお  
女はよく  
うたが  
うたが  
うたが  
うたが  
うたが  
うたが

「またるのやい  
なにもせんかたら  
はちまにじからるぞ」  
「ほれもそじやな」  
またるのやい  
おちあがり  
大きな松の木をたぎとつかむと  
ふんばりひこぬいて  
かつじでまじった。





そんな ある日。

だくさんの おにが 村を おそった。

はだけを ぬらし

おすめや こどもを さらって

わっぱは 笑いながら

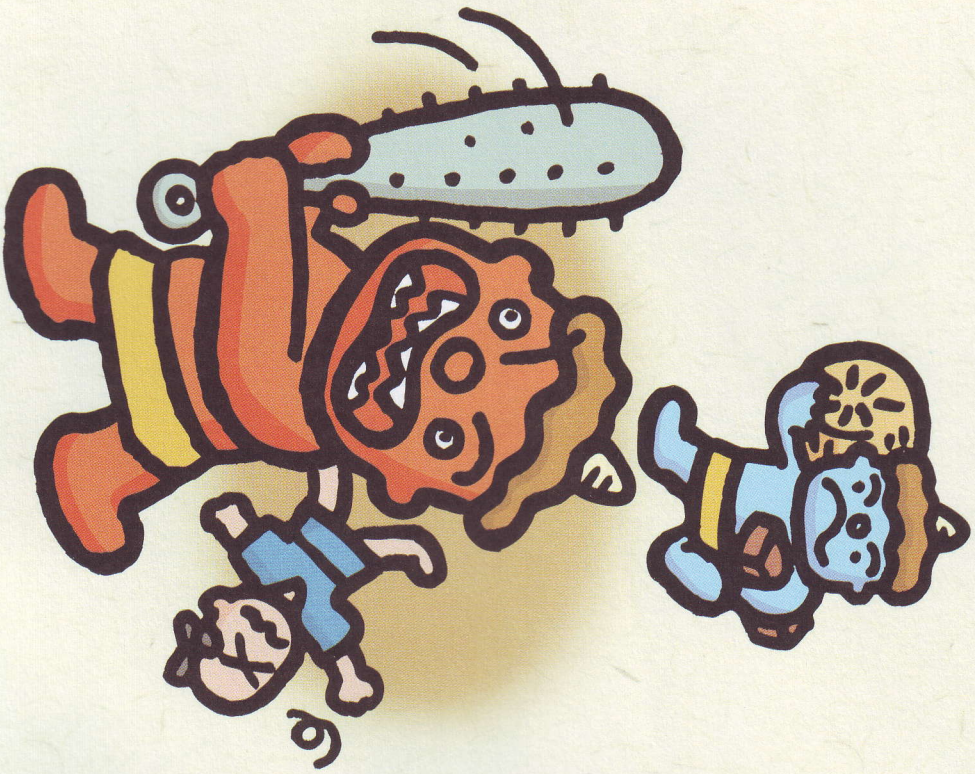
ひきあげて いった。

あきれたことに ままらるる

そのおにだじおん ぐにちうに こころ

ねて おった。

この ねほちけめ。







「おにだびしに おん いんせ」

目 の ちん くの いっだ。

ふあー、大きな おくび ひとっ。

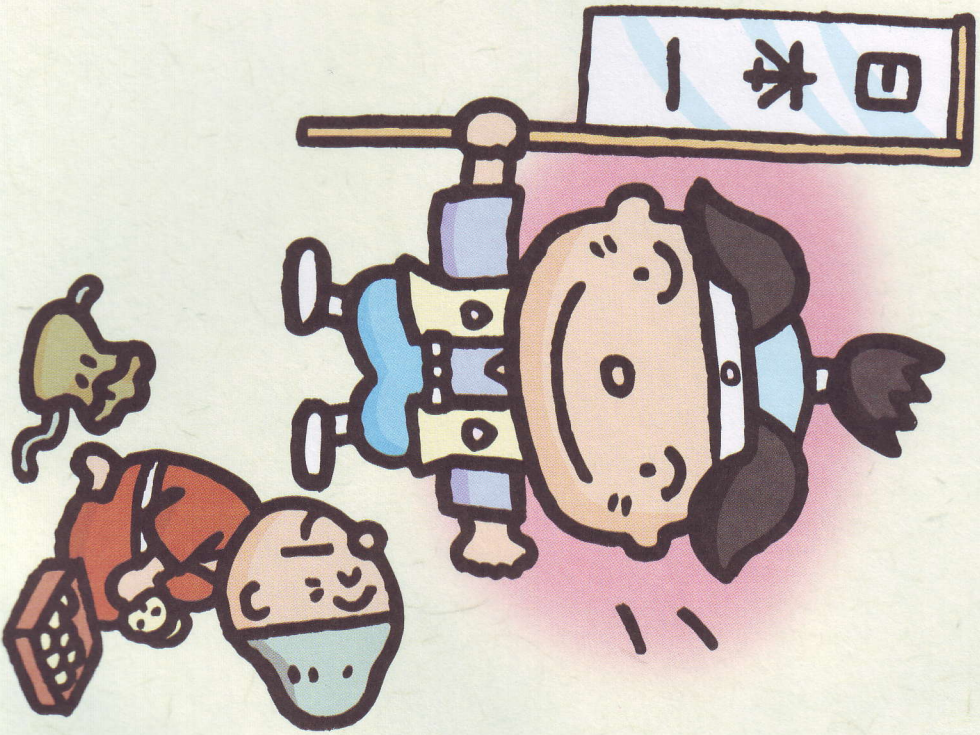
とろやく 目 を まじ だ も ま だ る の。

ゆあぶひ おこぞれだ。

「おにかねるを したの 知らんのか」

「ま だ る の ら や は ち お き る」





「おはようございます」  
「おはようございます」

「おはようございます」  
「おはようございます」

「おはようございます」  
「おはようございます」

「おはようございます」  
「おはようございます」  
「おはようございます」  
「おはようございます」  
「おはようございます」



いぬをのけて「はなちゃん」  
おなかをのけて「はなちゃん」

「おはなちゃん」

「おはなちゃん」

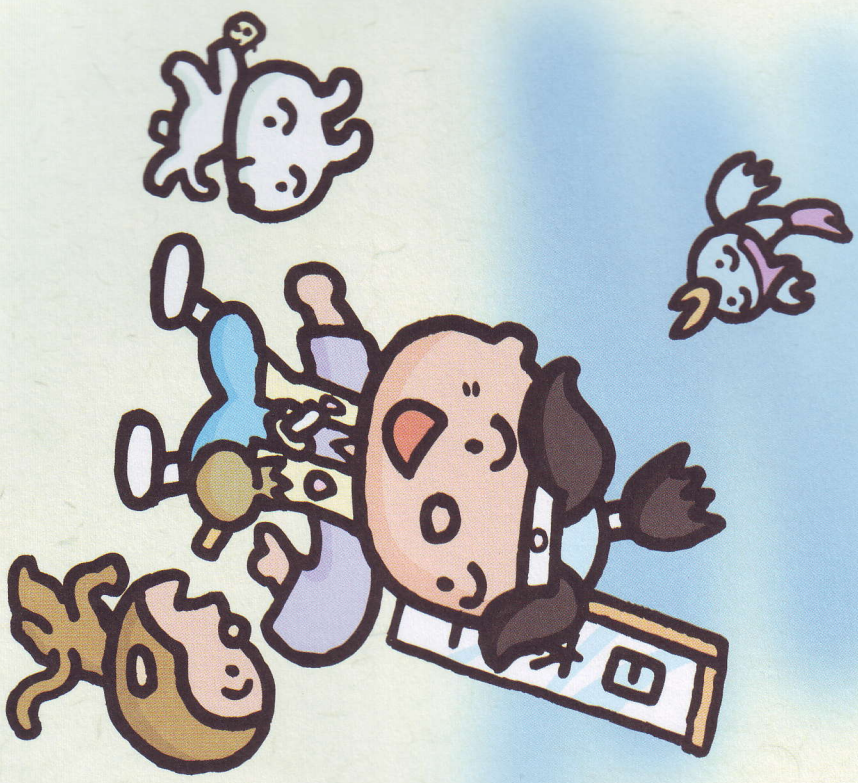
「おはなちゃん」

「おはなちゃん」

「おはなちゃん」

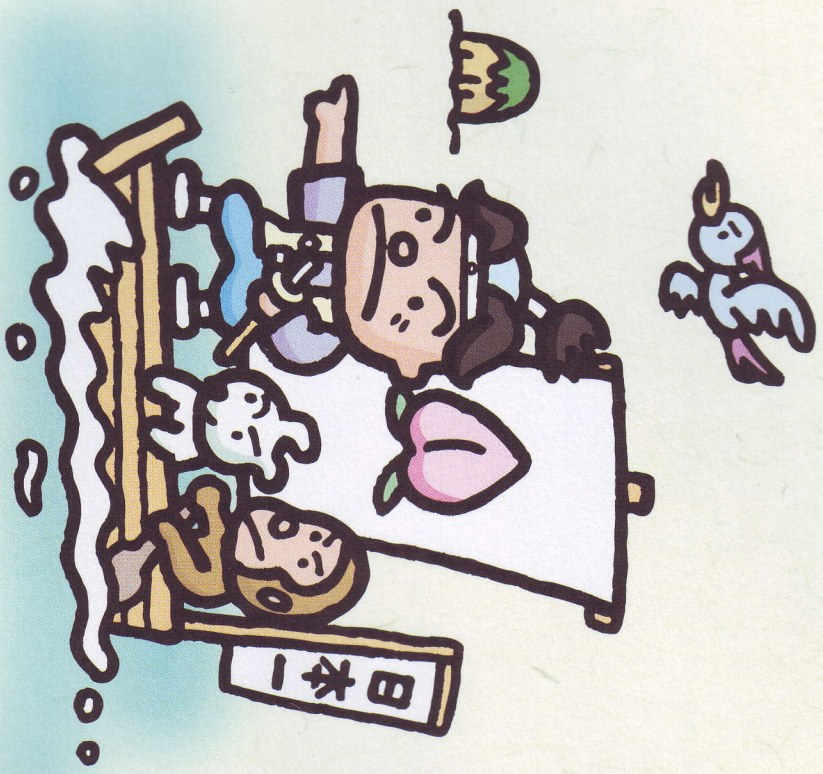
「おはなちゃん」

そこへおはなちゃん  
またおはなちゃん  
みんなそろって  
おはなちゃん





いぬ さる きじぞ おとまに じだがえ  
 ふねに のっこ ままたる  
 おにがしまめがけて  
 きんから おつから こいひ いっだ  
 きりだつた  
 はずきみねる いわ山 みえてきて  
 それが おにがしまだつたど。





おにがすむおにがしま。

この大門でんとしまことる。

するときじが門を

ピュッとどびこえ

なからかきをはずした。

そくいぬさるどびこんで

ギョッと大門ひらいた。

さてそれからさぎが

おおそとどる。

どびだしてきたおにだちに

いぬかみつくさるひかく

きじ目んだまほじくつた。

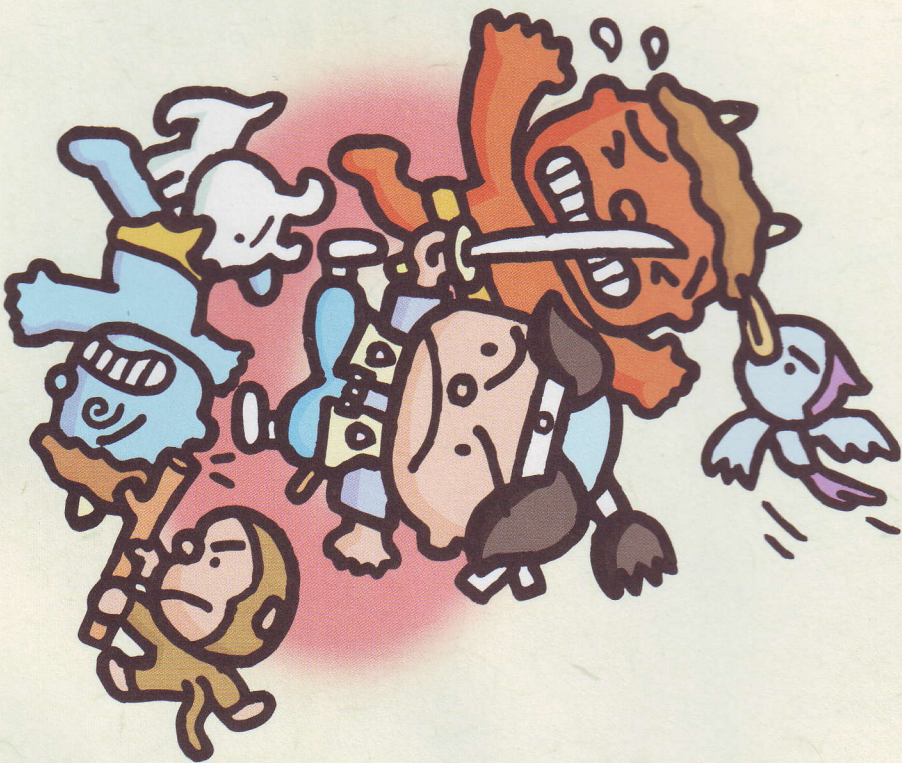
じたはたさるおにだちを

もまたる

おんきとつかみ

どんどんどんと

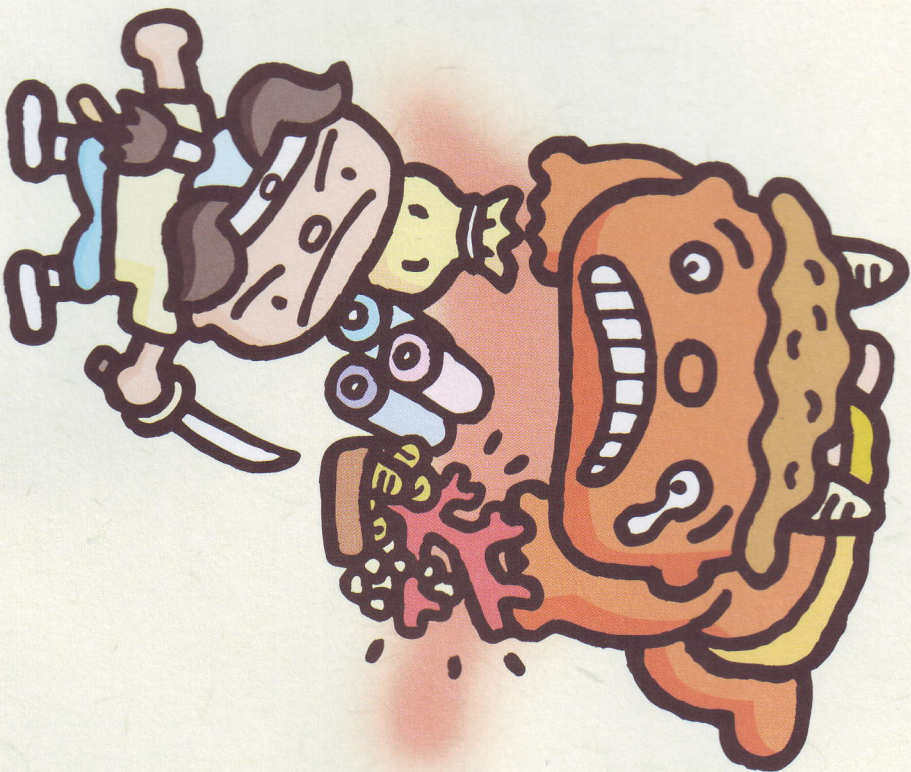
なげとほしたと。





なにしろ  
日本の ぎびだんご  
たべたら みんな こよいの なんの。  
おにの だいじょうふ  
こいさんじ 手をつき ばやまっだ。

むすめ こどもたちを たすけだし  
たからもの じばい かえして  
ふねに つんで  
きこちら おこちら  
まじきた みちを かえっだじ。





おかに おかると  
いはい かえした たらまの  
へるまに つかかえて  
エイヤム コイヤム  
村まで かえこつ きたぞ。

「でかした もまたる」

みんな 手ぎふり

よるこひ でむかえた。

じまま ばどまも

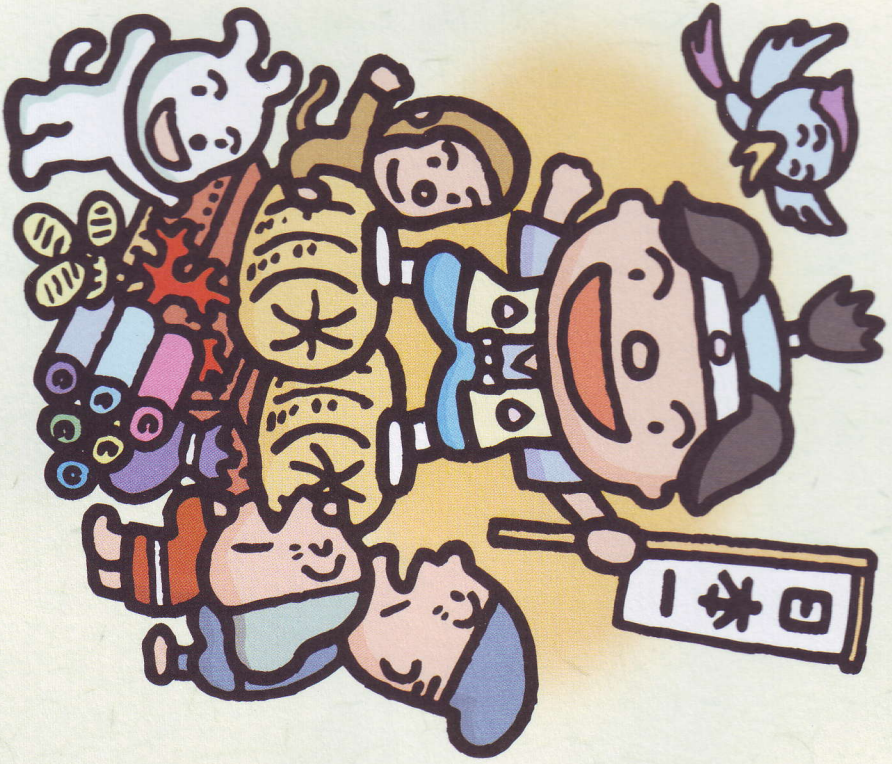
にこにこ えがおで でむかえた。

めでたし めでたし。

まどの とおひ 村は

くいねに もどこた ものな。

そして。





## あとがき

いつの時代でも、子どもたちは民話が大好きです。本嫌いな子ども、民話なら喜んで読んでくれます。また、読んできかせてあげることできます。民話は昔ばなしとも呼ばれ、長い間に磨きぬかれた、簡易平明な語りのおもしろさのなかに、ふるさと風の匂い、遠い祖先の知恵、夢や希望、涙と笑い、恐怖と慈愛など、いつばいのことからを、つめこんだ「お話の宝箱」なのです。さあ、そつとその蓋をあけてごらん下さい。どこかなつかしい自然を舞台に、人が、天女が、獣が、鳥が、鬼がウロウロ、生き生きと行きかう、もう一つの世界が待っています。天狗や雪女、のっぺらぼうなど、いそいでいない不思議な妖怪たちが、あなただのすゝそばにやってきました。いきなり話しかけてくるかも知れません。この民話シリーズは、そんな物語りの臨場感を大切に作りました。どうぞ、お子さまとご一緒にとっておきの民話をお楽しみください。

発行：(株)大創産業 ©

広島県東広島市西条吉行東1-4-14

MADE IN CHINA

発注 民話 6

HO75